

令和 7 年度 第 2 回羽島市社会教育推進審議会 会議要旨

日 時	令和 7 年 8 月 2 1 日（木）午前 1 0 時～午前 1 1 時 1 5 分
場 所	羽島市役所 第 1 委員会室
出 席 者	（社会教育委員）出席者 7 人 欠席者 1 人 岩田 睦巳 委員(小中学校長会代表) 小森 博昭 委員(スポーツ推進会議代表) 服部 憲雄 委員(子ども会育成協議会代表) 堀 登司仁 委員(文化協会代表) 水谷 千枝 委員(レクリエーション協会代表) 渡邊 修 委員(コミュニティセンター館長会代表) 二村 玲衣 委員(学識経験者) （事務局） 丸山 靖生（生涯学習課長） 柴田 泰宏（スポーツ推進課長） 番 重宗（図書館長） 吉川 徹（生涯学習課長補佐） 牛田 紗耶香（同課係長） 林 朋恵（同課主事）
内 容	1 開会 ・ 資料確認 ・ 会議開催成立の報告 ・ 会議公開及び傍聴の有無の報告 2 委員長あいさつ 3 議事 羽島市生涯学習・スポーツ推進事業の進捗（令和 6 年度実績）について 資料に基づき、事務局より令和 6 年度実績を説明。 （委員） 資料の 8 ページ、「放課後子ども教室における伝統文化活動の実施率」について、令和 7 年度の目標値が 2 0 %となっており、令和 4 年度から既に目標値を超えているが、これは令和 2 年度に目標値を立てているからという解釈でよろしいか。 （事務局） そのとおりである。計画を立てた令和 2 年度に 2 0 %という目標を立てたが、令和 3 年度以降実施をしていく中で、既に目標値を超えている状況である。

(委員)

青少年育成推進員について、一昔前は色々な事業を推進員が自分たちで企画していたが、最近ではコミュニティセンターが企画・準備をし、推進員がお手伝いをするということが多い。市で青少年育成推進員の研修会があると思うが、そこでは青少年の活動に向けてどのようなことをお話されているのかを教えてください。

(事務局)

青少年育成推進員の皆様には、4月に研修会を行い、今年度は新しく推進員になられた方が多かったことから、役割や活動について一から勉強するものとなった。また、例年9月には管外研修があり、昨年度は関ヶ原町を訪問し、関ヶ原町の青少年育成活動を行う皆さんと羽島市の青少年育成推進員で意見交流を行った。今年度は各務原市との交流を予定している。そうした研修を通して、実際に自分たちが地域でどう動いていくかを考えていただく機会を作りたい。

(委員)

放課後子ども教室について、伝統文化活動の実施率が30%を超えているが、対象が小学校2年生、3年生では理解が難しいのではないかと思う。対象の学年を上げることは考えていないか。

(事務局)

放課後子ども教室の対象の学年については、前回の審議会においてもご指摘いただき話題にしているところである。放課後子ども教室の本来の目的は地域の方との繋がりを持ちながら様々な体験活動を行うことである。体験的な学びの方法や効果を探りつつ、学年の見直しをする必要があるかどうかも含めて検討していく。

(委員)

例えばお囃子の場合、3回行い1回ごとに1時間半から2時間の活動時間である。3回目には保護者へ向けた発表会があるが、講師と共に演奏して初めてできている。日にちを延ばすのか、回数を増やすのか、その辺りも検討していただけると有難い。

(委員)

重点施策3-2、3-3のご報告について、家庭というところが出てこないが、家庭教育については教育委員会で取り組まれてお

り、家庭との繋がりが無いところで生涯学習課では地域で取り組んでいるように見受けられる。取り組んでいる内容の中で家庭あるいは保護者との連携はあるのかないのか教えていただきたい。

(事務局)

家庭との連携を意として進めている事業はないが、生涯学習課では子ども会の担当をしているため、子ども会フェスティバルや研修会の開催を支援している。そこで保護者を取り込んだ活動があり、地域を通じて青少年育成に取り組んでいる。

(委員)

子ども会の活動は、家庭生活に繋がっていると思う。年々子ども会に加入される方が減っており、現在は70%以下である。子ども会の行事や保護者の研修会も段々少なくなっている。資料にもあるとおりKYT研修は、子ども会の各単位の活動のときに何が危険かを考える研修であり、保護者の危険を予知する力が養われていると思う。2月には来年度の役員を対象に指導者育成者研修会を行い、子ども会の活動や運営について教えている。子ども会の役員は避けられがちであるが、子ども会は素晴らしいものであり、子どもたちが学校で見せる顔とは違う顔を見せてくれることがあると伝えている。

(事務局)

先程のお話で、家庭教育はこの社会教育で議論されないのかということについて、家庭教育というのは、文字通り保護者もしくはこれに準ずる方が子どもに対して行う教育のことで、家庭教育そのものは自主性がとても重んじられる部分であり、社会教育には入れない場合が多いと理解している。ただ、委員が話されたように保護者の家庭教育に関する学習の支援という部分については、社会教育の範疇に入ると考える。子ども会をはじめそのような関連団体の皆様にいろいろな支援・協働という形で家庭教育を支援するための施策を進めていきたい。

(委員)

最近図書館を訪れたが、限られたスペースの中で、トピック的な図書の配置を工夫してみえ、職員の皆さんのアイデアを感じ、素敵な図書館経営をされていると思った。

重点施策４－４（３）読書活動の推進について、「放課後児童教室等への除籍本の寄贈」とあるが、これはかなり多い数なのか。

（事務局）

除籍する書籍については年間３，０００冊ほどあるが、その中で放課後児童教室に寄贈する書籍としては児童書に限られる。児童書については頻繁に利用する年代が低いこともあり、汚損や破損している書籍があり、そちらを除いて３００冊ほどは寄贈している。

（委員）

書籍を再利用をすることは有効な手立てだと思うので、今後も続けていただけると有難い。学校にも図書館があるため、除籍する本を受け取ってもらえる場所がもしあれば今後教えていただきたい。

（委員）

ねんりんピックについて、ゲートボール会場はどこなのか、などの声もあり、盛り上がりには欠けていると感じる。市の方でももう少し盛り上げるような方策をとっていただけると、市民も盛り上がると思う。

（事務局）

現在 PR 活動を着々と進めており、今月中に会場に１００本程度のぼり旗を配置する予定である。また、一般市民向けの参加イベントについては、今年度５月、６月、７月に脳トレ体操教室を開催し、非常に好評であった。また１０月の広報はしまに、ねんりんピックの記事を掲載する予定である。

（委員）

ねんりんピックについて、私が所属する福寿小学校の生徒がオープニングイベントのときに鼓笛を披露させていただく。そうしたことも例えば新聞社等に投げ込んでいただいて、記事にさせていただくと地域に広がっていくと思う。協力できることがあれば協力させていただく。

（委員）

重点目標６－２の成果指標、「総合型地域スポーツクラブに加入している人数」について、休日部活動の地域移行後は、中学生はスポーツクラブに加入するようになるということか。

	(事務局) そのとおりである。休日部活動の地域移行後は、中学生はスポーツクラブに加入するということになるため、今後文化部活動が段階的に加入をしてくると考えると一定の増加が見込めると考えている。 4 その他 事務局より、図書館のシステムの更新、第56回東海北陸社会教育研究大会岐阜大会の開催について周知 5 閉会 以上
--	--